

令和8年度 第1回子どもにやさしいまちづくり推進会議（要約表記）

【日 時】令和8年8月20日（木）10:00～11:15

【場 所】豊田市役所 南51会議室

【出席者】

（会場出席委員）※委員名は五十音順

飯田 美早紀（豊田市こども園保護者 代表）

岩井 武彦（豊田市小中学校長会 西保見小学校長）

小栗 保宏（豊田商工会議所 参与）

加藤 吏（トヨタ自動車株式会社 人事部労政室未来の働き方開発グループ グループ長）

加藤 若奈（市民公募委員）

木戸 早苗（市民公募委員）

釘宮 順子（NPO団体 フリースペースK 代表）

窪田 裕巳（豊田市私立こども園（豊田東丘幼稚園） 園長）

甲村 敬司（豊田市青少年健全育成推進協議会 会長）

酒井 恵子（豊田市母子保健推進員の会 会長）

佐々木 弥生（名古屋法務局豊田支局 総務課長）

鈴木 英之（豊田市区長会 理事）

竹川 和人（豊田市私立幼稚園協会 市推進委員）

中島 良樹（愛知県足助警察署 生活安全課長）

永井口 英史（愛知県豊田警察署 生活安全課長）

永谷 早穂（豊田市子ども会議 子ども委員）

野口 眞弓（日本赤十字豊田看護大学 元教授）

深谷 和義（椙山女学園大学 教授）

古澤 憲司（豊田市子ども会育成連絡協議会 会長）

松永 聡（愛知県豊田加茂福祉相談センター センター長）

萬屋 育子（NPO法人CAPNA（子どもの虐待防止ネットワーク・あいち） 理事）

渡邊 佐知子（豊田市子どもの権利擁護委員 代表擁護委員）

和田 梨沙（豊田市私立幼稚園保護者の会連合会 会長）

（事務局）

曾我 史人（こども・若者部長）

柘植 孝悦（こども・若者部 副部長）

近藤 啓史（こども・若者部 こども・若者政策課長）

相田 祐里（こども・若者部 保育課長）

加藤 世明（こども・若者部 おやこ応援課長）

安藤 弥生（こども・若者部 こども相談課長）

矢藤 亜矢子（こども・若者部 こども・若者政策課副課長）

中島 康輔（こども・若者部 こども・若者政策課担当長）

【欠席者】

内村 未佳子（豊田市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部会長）

大橋 一之（連合愛知豊田地域協議会 代表）

中屋 浩二（児童養護施設梅ヶ丘学園 施設長）

吉永 真理（日本ユニセフＣＦＣＩ委員会（昭和薬科大学） 副委員長）

1 開会

事務局

- ・令和８年度 第１回豊田市子どもにやさしいまちづくり推進会議を開会する。
- ・本日、委員２７名中２３名に御出席いただいている。４名が御都合により欠席されているが、豊田市子ども規則第１９条第２項に規定する委員の半数以上の出席を満たしており、本会議が成立していることを報告させていただく。
- ・本日は、傍聴の方が１名いらっしゃる。また、会議録は市のホームページに掲載する。
- ・最初に、昨年度の会議以降、各団体の役員の改選や、組織の異動などにより新たな委員に御就任された方を紹介する。新しく委員になられた方の委嘱状は机上に配布している。委員任期は、令和９年７月２８日までである。
- ・委員名簿の名前の後ろに「※」マークの付いている８名の委員には、本会議の中に位置付けている「豊田市児童福祉審議会」及び「豊田市幼保連携型認定こども園審議会」の両審議会における委員の兼務を依頼している。

2 部長あいさつ

事務局

- ・こども・若者部長 曽我から御挨拶申し上げます。

部長

- ・近年、本市は全国でも特に気温の高い地域として注目されている。加えて最近では、熊本の地震や千葉の大雨など、全国各地で自然災害も相次いでいる。
- ・こうした気候の変化や自然災害を踏まえ、特にこどもが置かれる環境に配慮し、必要な対策を講じていくことが重要である。
- ・本日は、「豊田市こども・若者計画」の事業進捗および「日本型 CFCI（子どもにやさしいまちづくり事業）実践自治体」としての取組状況について報告する。基本理念である「こどもたちの笑顔があふれるまち とよた」の実現に向けて、多様な主体と連携して取り組んでいきたい。

3 会長あいさつ

事務局

- ・野口会長から皆様に御挨拶いただく。

会長

- ・初参加の委員もいるため、不明な点は遠慮なく質問していただきたい。
- ・活発な意見交換をお願いしたい。

4 議事

（１）豊田市こども・若者計画の令和７年度事業実績及び令和８年度の取組推進について（協議）
【資料１・２】

事務局

- ・これから議事に移らせていただく。議事の進行は、豊田市子ども規則第１９条第１項の規定により「会長がその議長となる」とあるので、野口会長にお願いしたい。

会長

- ・スムーズな議事の進行に御協力をお願いしたい。
- ・議事の一つ目「豊田市こども・若者計画の令和７年度事業実績及び令和８年度

	の取組推進」について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(資料に基づいて説明)
会長	・今の説明について、御意見・御質問はあるか。
委員	・資料２－１の「担当課」という表記について、支所やセンターなど、必ずしも「課」ではないため、修正すべきでは。
事務局	・おっしゃるとおり。適切な表記に訂正する。
委員	・「ライフデザインセミナー」の参加人数について、資料２－１では６６７名、資料２－２では６７７名となっているが、どちらが正しいか。
事務局	・６６７名が正しい。資料２－２の記載を訂正する。
委員	・取組方針の１つである「こどもの意見表明の機会充実」について、乳幼児や障がいのある子どもなど、意見表明が難しいこどもの声をどう把握しているのか。
事務局	・現場で子どもと接する保育士・支援者・関係機関などを通じて声を把握することが重要と考えている。子どもと接する時間や機会を増やすための環境整備も進めていく。
委員	・校内はあとラウンジの全校展開は評価できるが、一方で支援職員の確保や質の担保が課題。また、子どもが利用しやすい工夫も必要。
事務局	・教育委員会と共有をし、運営の改善につなげる。
委員	・部活動の地域展開に向けて、１２月から施行される「子ども性暴力防止法」に基づいた相談体制や指導者への研修体制の整備が必要だと思うが、どのように取り組んでいるのか。また、本事業は同法において義務または認定いずれの位置づけになるか。
事務局	・研修体制等については、実施に向けた検討を進めていると聞いている。また、地域部活動は、認定（任意）の対象。
委員	・放課後児童クラブの受け入れ対象を５，６年生まで拡大されたことは評価できる。長期休暇中の運営方法について、どのような配慮や工夫を図っているか。
事務局	・例えば、学年ではなく、勉強や遊びなどの活動目的に応じたスペース活用を進めるなどの工夫をしている。また、豊田市では全校の体育館に空調が設置されたため、暑い日でも体育館を活用し、活動機会を確保している。
委員	・子ども支援だけでなく親が育つ支援も重要。 ・コロナ禍以前に、中学校で赤ちゃんの抱っこ体験が実施されていたように、すでにある資源や環境を生かして、乳幼児との触れ合い体験を通じた学びの機会を増やしてほしい。
事務局	・今年度から、「こどもの視点教室」など、大人がこどもの視点を体感し学ぶ機会を提供する取組を実施している。これは、大人がこどもの気持ちを知ることにつながる、非常に大切な取組だと思っている。
事務局	・地域の資源を活用しながら、さまざまな人とのつながりの中で学び合えるような支援活動を実施していきたい。また、「プレコンセプションケア」の考えを取り入れた教育も、市内小中学校で実施していきたい。
委員	・児童養護施設等に入所している、入所していた子どもたちは様々な事情で親と暮らすことができない。児童養護施設を卒業後、大学に行きたくても生活費や学費の工面が大変で奨学金などが必要。豊田市にも児童養護施設等がある。豊

- 田市として子どもたちに支援をしてほしい。
- 事務局
- ・今年度からケアリーバー支援の取組をはじめた。対象者の把握や支援につなげることに難しさを感じているが、取り組んでいく。
- 委員
- ・「こどもの権利プロジェクト」における「市民との共働によるこどもの権利啓発」について、これまで「とよたこどもの権利フォーラム」に継続的に関わってきた。こどもの権利に関心を持つ団体との交流も進んでいる一方で、こどもの権利をより幅広い市民に知ってもらい、日常生活の中で身近なものとして捉えてもらうことが課題である。今後も地域や団体と連携しながら、こどもの権利を分かりやすく伝える取組を進めていきたい。
- 事務局
- ・豊田市も実行委員の一員として参加している。今年度は11月8日に豊田産業文化センターで開催予定なので、ぜひ委員のみなさまにもお立ち寄りいただきたい。
- 委員
- ・「多様なこどもの居場所づくりの推進」について、参合館のアトリウムで実証実験を行ったとのことだが、具体的にどのようなことを実施したか。
- 事務局
- ・「ゆるっと♡ほけんしつ」という団体が、当日は午後2時から8時までの間、若い世代が、保健室のような感覚で気軽に相談できる場を設けた。高校生など約20名が利用し、「大人に相談することができて安心した」といった感想が寄せられた。
- 委員
- ・部活動の地域移行に関して、指導者には従来の「昭和的」な指導・接し方が残っており、現在の子どもたちとどのように関わっていくか悩んでいる状況がある。指導者が現代の子どもたちへの適切な接し方を身につけることも重要であり、その点についてもしっかり取り組んでほしい。
- 事務局
- ・担当課と共有して、対策に努めていく。
- 委員
- ・「産後ケアの利用促進」について、利用実績が増えているとは聞いているが、本当に利用を必要としている人たちが利用できるようにするためには、どのような取組が必要と考えているか。
- 事務局
- ・利用実績は前年度から倍増しており、令和7年度は延べ1054件の利用があり、産後の女性の約2割が利用している。今後も利用者の増加が見込まれることから、予約の電子申請の導入など、より利用しやすい環境づくりを進めていく。
- 委員
- ・参考資料1「こども・若者レポート」の「第1章 こども・若者に関するデータ」について、若年女性人口のデータは掲載されているが、若年男性人口のデータがない。男女ともに掲載すべきではないか。
- 事務局
- ・ご指摘のとおりであり、若年男性人口についても追記する。
- 委員
- ・豊田市が熱心に施策に取り組んでいることは理解しているが、保護者には施策に関する情報が十分に届いていない。子育て世帯により情報が届くよう、効果的なPR方法を検討してほしい。
- 事務局
- ・施策に関する情報が十分に届いていないという意見は、行政としても認識しており、大きな課題と認識している。これまでもさまざまな手段で情報発信を行っているが、届いていないのが現状である。今後も、必要な情報をより多くの子育て世帯に届けられるよう、取り組んでいきたい。本日配布した資料「とよたの子育て」も、その取組の一つであり、こうした情報発信を充実させていき

たい。

- ・今回のように率直な意見をいただくことは、今後の取組を進める上で大きな励みとなる。

会長

- ・本日、ご欠席の委員より事前に意見をいただいているため、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

- ・CFCI の評価方法について、CFCI の評価は自己評価方式であり、CFCI 第三者委員会はチェックリストの改善プロセスを確認する役割を担っているが、現状の図では第三者委員会が点検・評価を行うように見えるとの意見があった。今後、図を活用する際には注釈を付けるなど、必要な対応を図っていく。
- ・CFCI 実践自治体としての取組について、「豊田市の状況分析」の結果を市民や子ども会議に見てもらい、意見を寄せてもらうなど、今後の取組に活かせる仕組みが必要ではないかとの意見があった。「子どもにやさしいまちづくり推進会議」での審議や市ホームページでの公表に加え、今回新たに作成した「参考資料 2 わかりやすいとよたしこども・若者レポート」を活用し、子ども会議で報告するなど、今後の取組に生かせる方法を工夫していきたい。
- ・「わかりやすいとよたしこども・若者レポート」について、資料 3 ページに「社会増減数」のデータを追加してはどうか、また、資料 4 ページの吹き出しコメントに居場所についてのメッセージを追加してはどうかとの意見があった。いずれもご指摘のとおりであり、資料に追加していく。

会長

- ・以上をもって、本日の全ての議事を終了させていただく。それでは事務局にお返りする。

5 その他

事務局

- ・本日の会議録については、事務局が作成し、会長の確認後、市ホームページで公表させていただく。

委員

(「とよた子どもの権利相談室活動報告書」の紹介)

委員

(NPO法人CAPNAからの案内)

委員

(豊田市母子保健推進員の会からの案内)

事務局

(「とよたの子育て 2026」の紹介)

6 閉会

事務局

- ・それでは、以上をもって令和 8 年度第 1 回豊田市子どもにやさしいまちづくり推進会議を終了する。